

# 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年3月6日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972000222		
法人名	医療法人 みずき会		
事業所名	グループホーム げいせい		
所在地	〒781-5701 高知県安芸郡芸西村和食甲4268番地		
自己評価作成日	平成24年1月16日	評価結果 市町村受理日	平成24年3月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設時の理念に加え、開かれたグループホームづくりを掲げ、行政や地域の方々、法人内の他部署との交流を深め、連携・協力体制の構築に努めている。入居者、家族、職員が共に安心して生きがいのある生活が送れるよう、それぞれの立場や思いを受け止め、日々の支援に取り組んでいる。車椅子の方が半数以上を占めるなど、重度化や超高齢化が進んでおり、吸引器を設置したり、在宅酸素療法を取り入れるほか、看取り支援など、法人内外の医療機関との連携も強化している。一方、グループホーム本来の目的である入居者の共同生活支援の視点を大切に、職員の担当制により入居者一人ひとりの理解を深め、力を引き出し、チームによるアセスメントやサービス計画の作成に取り組み、両ユニットが協力し合いながら、より満足度の高いサービス提供ができるよう取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3972000222&amp;SCD=320&amp;PCD=39">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3972000222&amp;SCD=320&amp;PCD=39</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域の高台にある法人の医療機関の敷地内にあり、老人保健施設や介護関連事業所も併設され、法人全体で開催する文化祭には多くの住民の参加を得ている。周辺には園芸ハウス団地があり、日頃から野菜や花卉類のお裾分けがあったり、地域の良心市や量販店での買物や百歳体操、敬老会、祭りへ参加し、顔馴染みの住民と声を交わしたり、小学生などのボランティアグループとの交流や、院内保育所の園児との触れ合う機会もある。また、法人の医療機関との連携体制も整っており、利用者、家族からも安心と信頼を得て、管理者をはじめ職員は、常に利用者の笑顔を大切にすることを心がけ、日々の支援に取り組んでいる。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成24年2月16日

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: GHげいせい本館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、職員や来訪者の見やすい場所に掲示している。また、職員は理念を共有しながら実践に努めている。	職員同士が話し合い、事業所が目指す地域密着型サービスの理念を作成している。理念は目につきやすい場所に掲示したり、ケア会議などの際に理念を振り返りながら、管理者、職員は利用者の笑顔を大切に日々実践している。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人内外のイベントなどを通して地域の人々と交流したり、外出や買物などで入居者が地域の人々と交流できるよう支援している。	法人全体の文化祭に多くの住民の参加があったり、小学生などのボランティアグループの訪問を受けて交流している。また、地域の敬老会や百歳体操などに参加したり、買物時などに知人と挨拶を交わすほか、近所のハウス農家から野菜や花のお裾分けもある。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、入居待機者の家族などに認知症に関するパンフレットを利用しながら説明し、理解を深めてもらったり、気軽に相談に応じている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2カ月毎)に会議を開催し、委員の意見や助言はサービスに活かすようにしている。地域の行事や活動、ボランティアの情報などの提供も受けている。	利用者の状況や活動などについて事業所から報告し、参加委員と双方向的に意見を交わしている。出された意見等は職員間で共有し運営につなげている。会議の概要を便りに掲載し、家族に知らせている。また、委員の民生委員を通じて、民生・児童委員協議会メンバーによる花壇づくりなどの申し出を受けている。	今後、さらに地域との関わりを深めていくため、地域の幅広い分野から委員として協力してもらったり、事業所から議題を提案するなど、会議運営の工夫を期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや役場の担当係と電話や相互の訪問などで、報告、相談を密にし、協力し合っている。また、必要に応じて福祉関係部署とも連絡をとっている。	市の担当課や地域包括支援センターとは、運営推進会議のほか、地域ケア会議などの各種会合を通して関係を築くとともに、日頃から相互に訪問し合ったり、報告、相談などの機会があり、協力関係を築いている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会に定期的に参加したり、勉強会を開催し、職員の意識づけをしている。ケアについて困った時には、相談したり意見を出し合い、拘束がないか確認している。	身体拘束に関する法人内外の研修を通して職員の理解を深め、拘束のないケアに取り組んでいる。言葉による抑制など気になる対応があれば管理者から注意したり、職員会で話し合っている。日中は玄関等には施錠せず、リスクについて家族に説明している。外出傾向のある利用者には納得してもらうまで見守りながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する内外の研修会に参加している。また、ホーム会などで折にふれ、職員一人ひとりが人権尊重のケアについて考え、行動できるように努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者が窓口になり対応している。必要に応じて家族等に権利擁護制度について説明したり、活用に向けた支援をしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な時間をとり、契約内容や重要説明事項の説明を行い、理解と納得が得られるようにしている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは日々の関わりの中で、家族は面会時や電話などで、意見や要望を聞くようにしている。玄関に意見箱を設置するほか、運営推進会議の参加呼びかけや報告を隔月の広報「星の丘便り」に掲載している。また、年に2回の家族交流会を実施して、意見や要望を取り入れるように努めている。	利用者、家族の代表者に運営推進会議へ出席してもらうほか、家族とは日頃の面会時や電話などで意思疎通を図っている。また、行事に合わせて家族懇談会を開催し、家族のみで話し合う機会を設けるとともに、家族へのアンケートを行うなど、意向を汲み上げる工夫をしながら運営に反映させている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は随時の個別面談や定期的なホーム会で職員の意見や提案を聞き取っている。代表者は管理者から報告を受けて職員の意見等が反映できるよう努めている。	職員会やユニット会のほか、個別面談などを通じて職員の意見や提案を聞いている。腰痛対策として介護用品を購入したり、業務分担を見直すほか、夜勤者同士の連絡機器の整備など、運営に反映させている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の勤務状況等を把握し、職員配置にも余裕を持たせ、2人夜勤を継続したり、残業時間を減らすなど、働きやすい職場環境づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で研修計画を立案し、職員一人ひとりに適した研修に参加してもらい、伝達講習を行うほか、ホーム独自の内部研修を実施している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等を通して、できるだけ同業者と交流し、情報交換等を行いながらサービスの向上につなげている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から面接や見学の機会を設けたり、訪問するなどして、本人の思いや訴えに耳を傾け、安心できる関係を築くように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接や電話相談などで、家族の思いに耳を傾け、疑問等にも十分説明し、信頼関係を築くように努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談から利用開始に至るまで、本人や家族の状況を判断しながら、居宅支援事業所や地域包括支援センター、医療機関などと連絡を取り合い、最善の支援をしている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意思を尊重し、できることは一緒に本人のペースに合わせて行っている。得意分野があれば、相談したり意見を聞いたりしながら、本人の居場所づくりや生きがいづくりを心がけている。介護度の高い方には無理強いしないなどの配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況を来訪時や電話連絡、毎月の近況報告や写真も取り入れた便りなどを通して、入居者と家族の絆が途切れないよう工夫するとともに、折りに触れて相談するなどしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人とカラオケに出かけたり、スーパーマーケット等での買物や受診の際に、馴染みの方と会い、話せる機会を作っている。また、知人などの来訪は快く受け入れている。	知人、友人の面会を受け、一緒にカラオケに出かけたり、花の差し入れなどもある。買物や通院時のほか、ドライブがてら自宅に寄るなどして顔馴染みと声を交わしたり、行きつけの理美容院を利用している。また、家族の協力を得て墓参りに出かけるなど、これまでの関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や認知症レベルの違い、心身の状況に応じて、入居者同士が共に暮らせるよう支援している。トラブルになりそうな時には、スタッフが間に入り仲介している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気兼ねなく相談してもらおうよう伝え、相談には快く応じている。また、関係機関の紹介などもしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の立場に立って、会話や行動観察の中で、希望や意向を把握している。また、言語での表現が難しい方には、十分観察したり、アセスメント表に基づき検討している。	利用者の生活歴や得意なこと、趣味などを念頭に置き、会話や行動の中から希望や意向を把握している。困難な場合は声かけに対する反応や表情などから、思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人や家族、地域包括支援センターなどの関係機関とも連携し、これまでの暮らしやサービスの利用状況などを把握している。また、入居後も、日頃の関わりを通して、情報収集を行い、アセスメントシートの充実を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の経過記録や申送簿、サービス計画チェック表などによって、本人の心身の状況や暮らし振り、残存能力などの全体像を把握している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム独自のアセスメント表を活用しながら、本人や家族、医療機関などの関係者の意向や意見などを踏まえた介護計画を作成している。心身の状態等に変化が生じた場合は、カンファレンスやサービス検討会などで、随時見直しをしている。	3カ月を基本的な介護計画期間とし、見直し時期に合わせて、担当職員と計画作成担当者が評価を行うとともに、利用者、家族の意向も確認しながらカンファレンスを行い、介護計画を作成している。利用者の状況等に変化があれば、その都度見直ししている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状況や職員の気づき、ケアの実践状況を経過記録や日誌、サービス計画チェック表に記入するとともに、申し送りなどで情報を共有し、ケアの実践やアセスメントなどに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の事情で通院支援ができない場合は、管理者等が家族と連絡を取りながら受診対応をしている。医療ニーズに伴い、在宅酸素療法を取り入れたり、法人の協力で定期的に音楽療法を行うなど、柔軟に対応している。また、状況に応じて事業所で金銭管理を行っている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員連絡協議会や小学生などのボランティアグループの協力を得たり、法人のデイケア喫茶や夏祭り、地域の敬老会やあったかふれあいセンター事業に参加するなど、入居者が楽しく、笑顔で暮らせるよう支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する協力病院や法人外の病院で受診できるように支援している。薬剤の重複などを防ぐため、薬局とも連携をとっている。	入居時に医療連携体制などの説明を行い、利用者、家族の意向に沿って、ほぼ全員が法人の医療機関をかかりつけ医にしている。専門医の受診は家族対応としているが、事業所からの情報伝達もあり、殆ど管理者が同行している。受診結果については、経過記録や薬手帳をいつでも閲覧できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のケアの中で状態変化に気づいた時は随時、看護師である管理者や法人の看護職に相談し、助言や支援を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を行うとともに、早期退院に向けて情報交換や相談などを行っている。法人の病院とは日常的に連携していく関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化等の指針について説明し、同意を得ている。状況悪化時など必要に応じて本人や家族と話し合いの機会を持つようにしている。	入居時に重度化や看取りの対応について説明し、同意を得ている。これまで看取りの事例があり、職員研修も行いながら、利用者の状態や家族の意向を尊重し、主治医、看護師と方針を共有し、事業所としてでき得る限りの対応を心がけ、利用者、家族が納得して最期を迎えられるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを職員に周知するとともに、年に1回以上研修に参加し、伝達講習を行い、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を消防署立会いのもとで実施している。避難方法や緊急連絡機材の使用法もその都度確認している。スプリンクラーの設置とともに、法人の当直職員の協力を得て、夜間想定訓練も行っている。	消防署の指導を得て、事業所独自の防災訓練を実施しており、夜間想定訓練では同敷地の法人の医療機関等の職員の協力も得ている。防災訓練のチラシを地域に配っているが、住民の参加はない。飲食料品や備品の準備はできている。なお、老人保健施設は地域の避難所として指定を受けている。	今後も引き続き、防災訓練の実施について地域に情報発信をしていくとともに、現在、地域で協議されている災害弱者への災害支援を踏まえ、事業所においても運営推進会議で地域ぐるみの防災体制づくりについて話し合うなどの取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者のプライバシーや誇りを損ねないよう言葉かけに留意し、本人が傷つくような発言や態度を避けるように心がけている。また、個人情報の書類等は所定の場所に保管し、情報漏えいがないよう徹底している。	法人として利用者の尊厳を大切にすることに取り組んでおり、入浴や排泄支援のほか、日々のケアの中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応について職員同士で話し合いながら、ケアにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に合わせた言葉かけや態度で、本人が希望を表出できるよう工夫している。言語でのコミュニケーションのとれない場合は、行動パターンを把握しながら働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度化により、車いす使用の入居者が多いため、介護負担が大きくなっているが、できるだけ入居者の希望やその方のペースを大事にするよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や起床時に整容や身だしなみに注意を払っている。訪問美容の利用ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の負担にならないよう、できる範囲で食事の下準備や配膳、片づけなどを職員と一緒にしている。また、本人の嗜好や希望を取り入れた献立を工夫し、入居者と職員と一緒に食事を楽しむようにしている。	利用者の好む食べ物や旬の食材を食卓にのせている。利用者の得意なことやできる範囲で、調理の準備や配膳、片づけを職員と一緒に分担しながら行っている。職員は利用者と同じテーブルで、料理の味加減などの会話をしながら、和やかな雰囲気づくりに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士から献立のチェックとアドバイスを受け、栄養バランスに気をつけながら献立をたてている。水分量については、看護師の助言を得ながら、各人の状況に応じた水分量の目安をもとに、水分摂取の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で歯磨きをしてもらい、仕上げ介助をするなど、口腔内の清潔保持を支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの入居者に合わせた排泄介助の方法やリハビリパンツ等の選択について、職員間で話し合いながら支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄するよう声かけや誘導支援をしている。早め早めの支援により、失敗を少なくし、日中は布パンツで過ごすなど改善事例のほか、ポータブルトイレを用意するなど、個々に応じて支援している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物やきのこ、野菜、乳製品などを多く取り入れたり、水分摂取量を把握するとともに、便秘気味の方には特に気をつけ、腹部マッサージなどの支援をしている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は、その方の希望にできるだけ浴うようにし、入浴介助をしながら週に3回は入浴できるように支援している。	利用者の入浴希望に沿って支援しており、概ね2日に1回入浴している。入浴を嫌がる場合は、声かけのタイミングや職員が交替するなど工夫しながら支援している。また、足浴や清拭など柔軟に対応している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の希望や心身の状況を把握し、安心して休んでもらうように支援している。また、夜間に眠れない時は、暖かい飲み物を提供し、一緒に過ごすなどの工夫をしている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎の処方箋を見やすくファイルし、注意事項の確認をしている。薬と合わない食物等に気をつけながら、服薬チェック表と声出し確認を徹底し、飲み忘れや誤薬がないように支援している。また、薬の変更等は、申し送りや記録により共有している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯干しや整理など、それぞれの得意なことを把握し、役割を担ってもらったり、買物や外出支援など気分転換についても配慮している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	業務分担がフリーとなる職員配置に工夫しながら、地域の祭りへの参加や買物等の外出支援をしている。また、法人の車椅子リフト車を借り上げ、季節の花見や行楽などに出かけている。また、地域の敬老会への参加は、村役場やボランティア、家族の協力を得て恒例となっている。	日常的に法人の敷地内を散歩したり、玄関先で外気浴をしている。買物やドライブなども利用者の希望に沿って随時対応したり、地域の百歳体操などの行事にできるだけ参加するようにしている。季節に応じた花見や果物狩り、行楽などに出かけている。車椅子の利用者も同様に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が不安な入居者が多く、ホームで預かり管理をしている。スーパーマーケットやおやつ購入、デイ喫茶に行く時には、お金を渡し、使う喜びを感じてもらうように支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の要望等に応じて家族に電話をかけてもらうように支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、常に清潔に保ち、必要に応じて感染症防止の消毒剤による拭き掃除も実施している。また、正月やさくら、七夕、紅葉、クリスマスなどの飾り付けや活け花などで、入居者に季節感を味わってもらうよう工夫している。	リビングにはゆっくりくつろげるようソファを置き、随時休めるよう簡易ベッドも用意している。玄関ホールや廊下などに雛まつりの壇飾りやタペストリーを架けるほか、住民から差し入れのあった花を活けたり、利用者と職員の共同作品、行事の写真を貼るなど、季節感や生活感を採り入れ、落ち着いた空間となっている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りでいたい時には、居室でいつでも自由に過ごすことができるよう支援している。また、リビングルームのソファや食卓などのお気に入りの場所で過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人や家族と話し合いながら、なるべく馴染みの物を持参してもらうようにしている。居室の壁には本人や家族の写真、好みのポスターを貼るなど、入居者が居心地良く暮らせるよう配慮している。	各居室には、ベッドや整理ダンス、鏡台や椅子、テレビやぬいぐるみのほか、家族写真を貼ったり、部分マットを敷くなど、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。また、趣味の絵画やジグソーパズルの作品を飾ったり、友人からもらった花を活けたりしている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のできることを見極め、分かりにくいことや不安がある場合は、大きな字や赤字で表示するなどの工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

アウトカム項目は各ユニットごとに作成してください

ユニット名: 本館

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: GHIがいせい新館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、職員や来訪者の見やすい場所に掲示している。また、職員は理念を共有しながら実践に努めている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人内外のイベントなどを通して地域の人々と交流したり、外出や買物などで入居者が地域の人々と交流できるよう支援している。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、入居待機者の家族などに認知症に関するパンフレットを利用しながら説明し、理解を深めてもらったり、気軽に相談に応じている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2カ月毎)に会議を開催し、委員の意見や助言はサービスに活かすようにしている。地域の行事や活動、ボランティアの情報などの提供も受けている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや役場の担当係と電話や相互の訪問などで、報告、相談を密にし、協力し合っている。また、必要に応じて福祉関係部署とも連絡をとっている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会に定期的に参加したり、勉強会を開催し、職員の意識づけをしている。ケアについて困った時には、相談したり意見を出し合い、拘束がないか確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する内外の研修会に参加している。また、ホーム会などで折にふれ、職員一人ひとりが人権尊重のケアについて考え、行動できるように努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者が窓口になり対応している。必要に応じて家族等に権利擁護制度について説明したり、活用に向けた支援をしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な時間をとり、契約内容や重要説明事項の説明を行い、理解と納得が得られるようにしている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは日々の関わりの中で、家族は面会時や電話などで、意見や要望を聞くようにしている。玄関に意見箱を設置するほか、運営推進会議の参加呼びかけや報告を隔月の広報「星の丘便り」に掲載している。また、年に2回の家族交流会を実施して、意見や要望を取り入れるように努めている。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は随時の個別面談や定期的なホーム会で職員の意見や提案を聞き取っている。代表者は管理者から報告を受けて職員の意見等が反映できるよう努めている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の勤務状況等を把握し、職員配置にも余裕を持たせ、2人夜勤を継続したり、残業時間を減らすなど、働きやすい職場環境づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で研修計画を立案し、職員一人ひとりに適した研修に参加してもらい、伝達講習を行うほか、ホーム独自の内部研修を実施している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等を通して、できるだけ同業者と交流し、情報交換等を行いながらサービスの向上につなげている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から面接や見学の手を設けたり、訪問するなどして、本人の思いや訴えに耳を傾け、安心できる関係を築くように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接や電話相談などで、家族の思いに耳を傾け、疑問等にも十分説明し、信頼関係を築くように努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談から利用開始に至るまで、本人や家族の状況を判断しながら、居宅支援事業所や地域包括支援センター、医療機関などと連絡を取り合い、最善の支援をしている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意思を尊重し、できることは一緒に本人のペースに合わせて行っている。得意分野があれば、相談したり意見を聞いたりしながら、本人の居場所づくりや生きがいづくりを心がけている。介護度の高い方には無理強いしないなどの配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況を来訪時や電話連絡、毎月の近況報告や写真も取り入れた便りなどを通して、入居者と家族の絆が途切れないよう工夫するとともに、折りに触れて相談するなどしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に沿って、地区の神祭や馴染みの店に買物に出かけ、知人に会い交流したり、知人などの来訪は快く受け入れている。また、入居前に利用していた理美容店など、馴染みの場所が利用できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が見守る中、入居者同士が車椅子を押したり、トイレの場所を教えるなど、互いに気遣い、協力し合う姿が見られる。また、お礼の言葉や労いの言葉をかけ合うなど、良い雰囲気が続けられるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気兼ねなく相談してもらおうよう伝え、相談には快く応じている。また、関係機関の紹介などもしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が落ち着いて話ができる雰囲気づくりを心がけ、入居者の言葉や表情、行動など日々の様子から思いや希望を把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人や家族、地域包括支援センターなどの関係機関とも連携し、これまでの暮らしやサービスの利用状況などを把握している。また、入居後も、日頃の関わりを通して、情報収集を行い、アセスメントシートの充実を図っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の経過記録や申送簿、サービス計画チェック表などによって、本人の心身の状況や暮らし振り、残存能力などの全体像を把握している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム独自のアセスメント表を活用しながら、本人や家族、医療機関などの関係者の意向や意見などを踏まえた介護計画を作成している。心身の状態等に変化が生じた場合は、カンファレンスやサービス検討会などで、随時見直しをしている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状況や職員の気づき、ケアの実践状況を経過記録や日誌、サービス計画チェック表に記入するとともに、申し送りなどで情報を共有し、ケアの実践やアセスメントなどに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の事情で通院支援ができない場合は、管理者等が家族と連絡を取りながら受診対応をしている。医療ニーズに伴い、在宅酸素療法を取り入れたり、法人の協力で定期的に音楽療法を行うなど、柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員連絡協議会や小学生などのボランティアグループの協力を得たり、法人のデイケア喫茶や合同の夏祭り、地域の敬老会やあったかふれあいセンター事業に参加するなど、入居者が楽しく、笑顔で暮らせるよう支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する協力病院や法人外の病院で受診できるように支援している。薬剤の重複などを防ぐため、薬局とも連携をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のケアの中で状態変化に気づいた時は随時、看護師である管理者や法人の看護職に相談し、助言や支援を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を行うとともに、早期退院に向けて情報交換や相談などを行っている。法人の病院とは日常的に連携していく関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化等の指針について説明し、同意を得ている。状況悪化時など必要に応じて本人や家族と話し合いの機会を持つようにしている。家族や主治医、法人内職員や薬局等の協力で、看取り介護を行った事例もある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを職員に周知するとともに、研修に参加し、伝達講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を消防署立会いのもとで実施している。避難方法や緊急連絡機材の使用法もその都度確認している。スプリンクラーの設置とともに、法人の当直職員の協力を得て、夜間想定訓練も行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者のプライバシーや誇りを損ねないよう言葉がけに留意し、本人が傷つくような発言や態度を避けるように心がけている。また、個人情報の書類等は所定の場所に保管し、情報漏えいがないよう徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話を大切にし、言葉遣いや話す速度などを気をつけ、入居者が思いを話しやすく、自己決定ができるよう支援している。言語でのコミュニケーションがとれない場合も、手振り身振りなどの工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、無理強いをせず、なるべく希望に沿った毎日が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣の汚れや整容、身だしなみに気をつけている。希望に沿って行きつけの理容院に行ったり、訪問美容の利用もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者はできる範囲で、調理の下ごしらえや配膳、食器拭きや片づけを職員と一緒にしている。また、入居者の好みなどに配慮しながら、季節の材料を使ったり、行事食を取り入れ、入居者と職員と一緒に会話しながら楽しく食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士から献立のチェックとアドバイスを受け、栄養バランスに気をつけながら献立をたてている。水分量については、看護師の助言を得ながら、各人の状況に応じた水分量の目安をもとに、水分摂取の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で歯磨きをしてもらい、仕上げ介助をするなど、口腔内の清潔保持を支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見計らって排泄を促したり、排泄介助の方法やリハビリパンツ等の選択については、職員間で話し合いながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物やきのこ、野菜、乳製品などを多く取り入れたり、水分摂取量を把握するとともに、便秘薬使用の方の排便状況を観察し、看護師に相談しながら支援している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3日以上入浴できるよう、入居者の希望やタイミング、体調に配慮しながら入浴支援に取り組んでいる。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、夜間に不眠にならない程度に居室やソファで休んでもらうように配慮している。また、夜間に良く眠れるように、ホットミルクを就寝前に提供したり、本人の生活習慣に応じた就寝介助をするなど、工夫しながら支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎の処方箋を見やすくファイルし、注意事項の確認をしている。薬と合わない食物等につけながら、服薬チェック表と声出し確認を徹底し、飲み忘れや誤薬がないように支援している。また、薬の変更などがあった場合は、申し送りや記録を通して確認している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買物、外出、パズル、雑誌、テレビ、音楽など、本人の希望に沿った楽しみ場面づくりのほか、好みの合ったおやつを用意したり、食事や洗濯などの家事作業の得意なことを把握し、役割を担ってもらっている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	業務分担がフリーとなる職員配置に工夫しながら、地域の祭りへの参加や買物等の外出支援をしている。また、法人の車椅子リフト車を借り上げ、季節の花見や行楽などに出かけている。また、地域の敬老会への参加は、村役場やボランティア、家族の協力を得て恒例となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる入居者には、週に1回小遣いを渡して、買物時に付き添い支援している。自分で管理できない入居者もイベントやデイ喫茶などに行く時にはお金を渡し、使う喜びを感じてもらうように支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて自分で電話をかけたり、取り次ぐなどの支援をしている。居室に電話を引いている入居者もいる。また、家族に手紙を書く支援もしている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには花や壁飾りなどで季節感や生活感を味わうことができるように配慮している。湿温計を設置したり、エアコンの温度設定にも気をつけている。トイレは使用后、匂いが残らないよう配慮しているほか、共有空間は、清潔に保ち、必要に応じ、感染症防止の消毒剤による拭き掃除も実施している。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は仲の良い入居者同士が会話を楽しめるよう配慮している。テラスに椅子を置いたり、リビングルームのソファの座席位置にも配慮している。また、所長室や自室に誘導し、独りの時間やゆっくり話を傾聴できる場を設けている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人や家族と話し合いながら、なるべく馴染みの物を持参してもらうようにしている。居室の壁には本人や家族の写真、好みのポスターを貼るなど、入居者が居心地良く暮らせるよう配慮している。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のできることを見極め、分かりにくいことや不安がある場合は、大きな字や赤字で表示するなどの工夫をしている。また、手すりやシルバーカーを使用するなど、本人がなるべく自由に行動できる環境づくりをしている。		

アウトカム項目は各ユニットごとに作成してください

ユニット名：新館

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない